

一貫だより

令和5年5月22日
千葉市立川戸小学校
校長 三橋 勉

☆小中一貫教育校として

小中一貫教育学校としてスタートを切り4年目を迎えました。コロナ 5 類移行に伴い活動の制限が緩和されましたが、今年度も小中一貫教育目標をめざして小中の職員で連携をしながら子供たちを育てていきます。尚、今年度川戸小中一貫教育ランドデザインを新しくしました。別紙のランドデザインをご覧ください。

☆小中一貫教育に関する活動計画

(1)小中一貫全体会議・小中一貫代表者会議

毎月1回程度、小中の職員が集まり、各活動について話し合います。今年度は教科領域部会も増えたので、学力向上に向けた検討も多く行う予定です。

(2)各部会が中心となる活動

中学校の先生による小学3年生から6年生までの外国語の学習や中学校保健体育教諭による体育指導、生徒総会見学、朝のあいさつ運動など、小学生と中学生が直接関わる活動を多く計画しています。

☆保護者の皆様にお願

小中一貫教育は小学校と中学校の職員がともに子供たちの指導や支援を行います。学校だけでなく、地域や家庭の皆様とも一緒に子供たちを育てていくことで、さらに大きな効果を得られます。「川戸の子供は川戸のみんな育てる」をテーマに、子供たちの支援にあたっていただければと思います。

そこで、小学校では子供たちが中学生になって自主学習に取り組めるよう、家庭学習に小学校全学年で取り組んでいます。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。(1年生は後期から実施予定です。)

家庭学習の行い方

- ① 毎週金曜日は「家庭学習の日」として、自分の得意な分野や不得意な分野について自分で考えて学習を行います。
- ② 家庭学習ノートを使い自分の課題にめあてをもって取り組んでいきます。自分自身で課題を設定し、学習の振り返りをしたり、次の学習の予習を行ったりします。学校でも取り組み方について指導していきますが、ご家庭でも是非、家庭学習の進め方について話をしてみてください。

☆小中一貫教育校のメリット

○小中連携による児童生徒学力向上

・小中学校の職員で各教科の部会を設定し、教育活動を行っています。「中学生になるまでにこんな力をつけてほしい」や「子供たちの基礎的な学力を高めるにはどうしたらいいか」などについて話し合っています。

〈活動例〉

・中2→小6の算数教え合い授業 ・中学校職員による小6の自由研究指導 ・中学生と社会科ノート交換

○中一ギャップの減少

・中学校に進学したときに、小学校との違いに戸惑い、生活が乱れる中一ギャップを減らすため、小学生のう

ちに川戸中学校に行ったり、中学校の先生や生徒と関わったりしています。

〈活動例〉・理科の乗り入れ授業 ・川戸美術館 ・中学校職員による英語、体育指導

○心情面の成長

・川戸中の生徒と、小学校の児童が関わる活動を行うことで、年下を思いやったり、年上のお兄さんお姉さんを尊敬したりする心を育てます。

〈活動例〉・中3卒業時に小4によるフラワーロードプロジェクト ・家庭科での中3、小1ふれあい体験学習

※活動は他にもたくさんあります。詳しくは今後さらに、一貫だよりで紹介していきます。

☆活動報告

4月27日(木)に中学校にて菊のさし芽ボランティアが行われました。当日は小学校3年生7名、4年生1名、5年生8名、6年生4名の計20名の児童と中学生30名が参加しました。地域ボランティアの方々の話をよく聞き、進んでボランティア活動に取り組んでいました。

お兄さん、お姉さんが優しく教えてくれて良かった。

楽しく活動することができた。次回も参加したい。

☆一貫会議

4月4日(火)川戸中学校に小・中の職員が集まり顔合わせを行いました。今年度着任した職員と共に小中一貫教育の概要について確認しました。

4月19日(水)には代表者会議において今年度の活動組織及び計画について話し合い、新型コロナウイルスの対応や制限のかかる活動や日常的な取り組みについて検討しました。

第2回小中一貫全体会(5月実施)では、部会に分かれ今年度の活動内容や実施時期などを話し合いました。詳細につきましては次号でご紹介させていただきます。

☆エコキャップ運動



今年度もペットボトルキャップの回収が行われます。集められたキャップはエコキャップとして、中学校の生徒会に渡し、ワクチンなどの購入費に変えられる運動にあてられます。引き続きご協力をお願いいたします。
昨年度、一年間のエコキャップ回収量は 34.6kg でした！

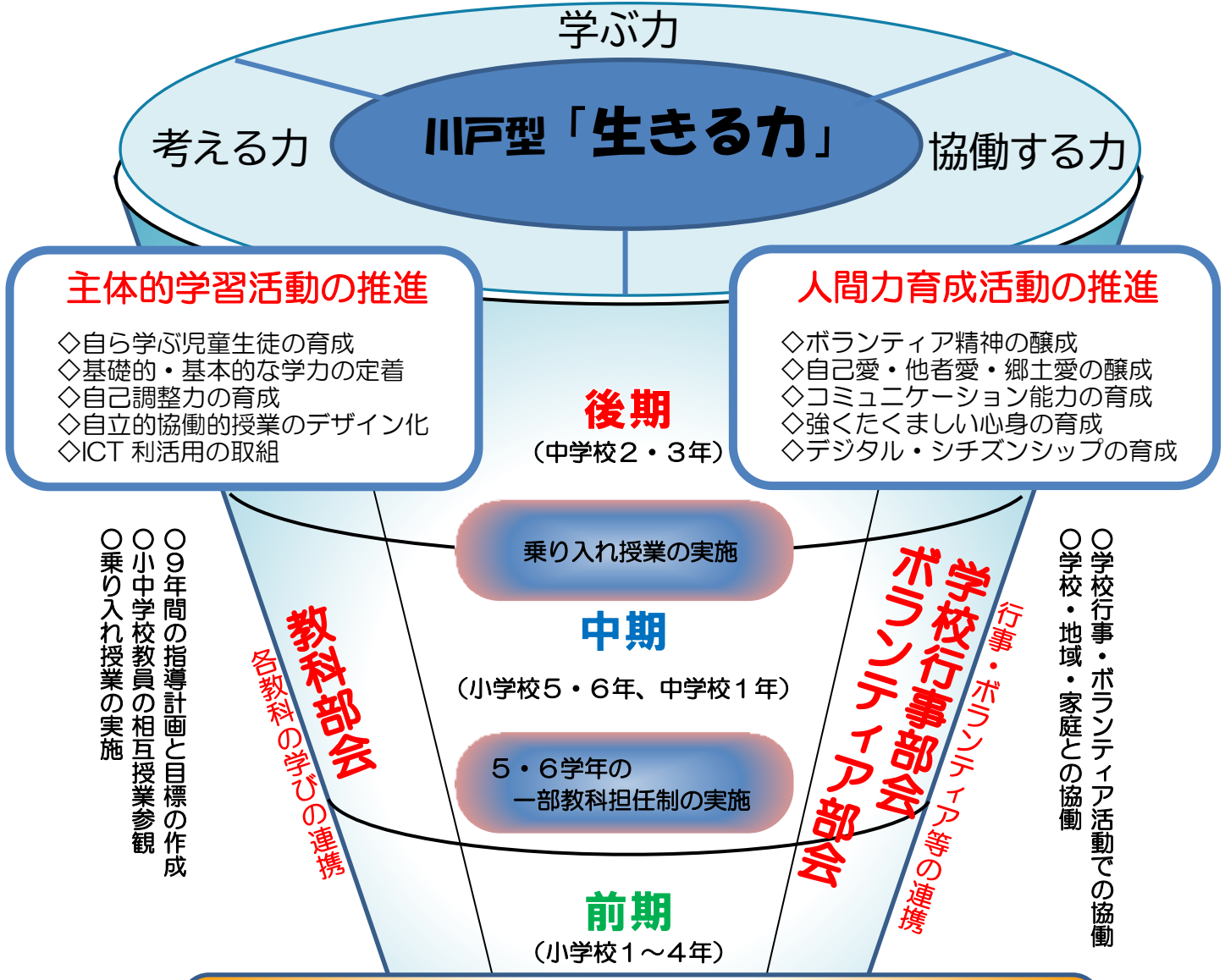
令和5年度川戸小中一貫教育グランドデザイン

川戸小学校教育目標
 自ら学び 心豊かに
 たくましく生きる子供の育成

川戸中学校教育目標
 進んで考え みんなで育つ
 ー高め合う・助け合う・認め合うー

川戸小中一貫教育目標
 自ら学び、考え、協働する力の育成

目指すべき姿 「15歳の春に、郷土を想い、『生きる力』を身に付け、未来を切り拓くことができる生徒」



千葉市小中一貫教育基本方針のもと、川戸型小中一貫教育は…

- 学校・地域・家庭が協力して川戸の子供を育てる。
- 「主体的学習活動」「人間力育成活動」を軸として、川戸型「生きる力」を身に付ける。
- 小中の教職員が話し合い、意思疎通する場を定期的に設定し、「一貫教育目標」、「目指す姿」の共通認識をもって小中全職員で指導に当たる。
(小中一貫全体会議、代表者会議、合同研修会等の活用)